

1. 事業概要

業務の目的：今日の図書館機能として単に本を借りるだけに留まらない、誰もが居心地が良いと感じる「サードプレイス」としての機能、新たな繋がりや活躍の機会を創出し、新しい価値や気づきに出会える場所となる「フォースプレイス」の機能が求められている。

現在の本市の図書館は、施設の老朽化や面積の狭さなどの課題を抱えている中、大規模改修によらない図書館のサードプレイス化を目指し、例えば子どもも大人も快適に過ごせるソファー席の導入や、コーヒーを片手に読書を楽しめる居心地の良い空間づくりの他、親子が時間を忘れてゆっくり過ごせる絵本に囲まれた空間創出など、新たな図書館利用者の呼び込みにつながる居心地の良い空間創出を試行的に実施するとともに、整備効果を検証することで今後の図書館構想策定に向けたエビデンスとすることを目的とする。

- ・実施期間 : 令和7年10月18日から令和8年2月20日まで
- ・履行場所 : 左京図書館・中央図書館・右京中央図書館

2. 空間の創出と空間創出効果を高めるイベントの企画・運営

(1) 左京図書館

- ・テーマ : BREAK&BOOKS コーヒーと本を楽しむひととき
- ・実施期間 : 令和7年10月18日(土)～11月21日(金)
- ・イベント等実施内容(10月18日に実施) :
 - ・ Pono coffeeによる家で美味しいコーヒーを淹れるコツを教えるワークショップ及びコーヒーの販売
 - ・ 東山いきいき市民活動センター(さわげる図書館プロジェクト)によるボードゲームパーティーの実施。



通常時



イベント時

実施結果

- ・ 「BREAK&BOOKS」というコンセプトの下、親子連れの利用客が子どもが小上がり部分で遊び、保護者がほど良い距離感でリラックスできるような空間を構成した。曲線ベンチは子どもがおもちゃで遊ぶのに適した形状で、小上がり部分に従来と異なる機能を持たせられた。設置した知育おもちゃが静音で遊び方が感覚的に伝わるものだったため、常に誰かが遊んでいる状況だった。
- ・ 「BREAK&BOOKS」というコンセプトのもと市内のコーヒー事業者や東山エリアの市民活動センターと連携したイベントを図書館を従来の「本の貸し出しの場所」から利用者がリラックスできる「サードプレイス」としての機能を実装するとともにボードゲームやワークショップなど交流型のコンテンツを通じて多世代交流を誘発する「フォースプレイス」的な役割を試験的に導入した。これにより、本市が新たな施策に挑戦しているという期待感の醸成につなげることができた。

(2) 中央図書館

- ・ テーマ : FIND&BOOKS -本とくつろぐ、新たな発見につながる-
- ・ 実施期間 : 令和7年11月22日(土)～令和8年1月16日(金)
- ・ イベント等実施内容 :
 - ・ 11月22日 : 図書館の屋外空間を活用したイベントの実施(キッチンカー・ベビーカステラ出店/本の交換会/中央図書館周辺オリジナルMAPづくり/電子書籍ガチャガチャの設置)
 - ・ 中高生限定自習空間「Library Study Space(リブスタ)」 : 通常は制限されている資料の持ち込みによる自習での利用を可能とした。



通常時



イベント時 1

実施結果

- 「FIND&BOOKS」というコンセプトの下、探索して本と出会えるような空間を構成した。あえて視線が通らないように植栽を設置したが、癒しの効果と利用客の居場所が近くてもプライバシーを保障する機能があった。一部管理業務が発生したが、メリットの方が十分に大きかった。座席は高齢利用者が多い中でより安定性のあるものにすべきだった。
- 屋外のピロティを活用し、足を止める仕掛け（市内事業者と連携したキッチンカーなどの出店・物々交換の本棚）を配置することで、普段図書館を利用しない層や地域住民の立ち寄るきっかけとなった。「開かれた場としての図書館の変化」を可視化することに寄与した。また、周辺のオススメマップを作成することで、図書館を起点に周辺エリアへ人を送り出す導線をつくり、施設単体での完結ではなく、「図書館と周辺地域のつながり」を創出した。

(3) 右京中央図書館

- テーマ：MEET&BOOKS - 本と出会う・多世代と交流する -
- 実施期間：令和8年1月17日（土）～令和8年2月20日（金）
- イベント等実施内容：
 - 1月17日に実施したイベント：
 - 自己紹介をテーマにしたZINEづくりのワークショップの実施。
 - ZINEのつくり方の冊子の配布
 - 図書館カフェ：
 - 「気ままおやじ会右京」の協力による図書館内でのコーヒー販売。
 - 図書館に地域の憩いの場としての機能を付加した。
 - ～本とつながる、人とつながる～「みんなの本棚」及びゆるコミボード：
 - 市民が図書館の中に自分だけの本棚を持つことができる「みんなの本棚」を設置。市民が単なる「利用者」に留まらず表現者として図書館に関わる機会を提供した。また、本を媒介としたコミュニケーションを促進する「ゆるコミボード」を設置。
 - おすすめの本の紹介や本の感想を通じ、市民の主体的な関わりを創出した。



通常時



イベント時

実施結果

- 「MEET&BOOKS」というコンセプトの下、本を通じて交流が起こるような空間を構成した。従来は新聞閲覧の利用者がほとんどだったが、複数種類の座席を用意したことで期間中は多様な利用者が見られた。屋台を利用誘引のための配置としたが、コーヒーを買わないと中に入りづらいという声があった。
- 「20代の利用層が少ない」という事前課題に対し、自己表現を軸としたZINEワークショップを展開。狙い通り20代の誘致に成功しただけでなく、20代から60代という幅広い層が参加し、世代を超えた交流を実現した。本取組は図書館が単なる「静かに本を読む場所」から、市民が主体的に表現し、新しい価値や気づきに出会える場所となる「フォースプレイス」へと機能を拡張できる可能性を示唆した。キャンセル待ちが生じていることから単発のイベントで終わらせず、新たな利用者層を図書館に呼び込みコミュニティ形成を図るきっかけとして、継続的に取り組むことが望ましい。

3. 本事業を幅広い市民に周知するための広報

(1) 特設サイトの制作・情報発信

特設WEBサイトを制作し、取組概要・イベント情報等の発信を実施した。

(2) チラシの作成・配布

図書館・児童館などの施設にチラシを配布した。
(9,500部 (当初6,500部印刷し、3,000部追加した))

(3) 公共空間活用に関する情報を発信するWEBメディア

「公共R不動産」の開催告知記事の掲載及び、音声メディア Podcast「公共R不動産の頭の中」での紹介を行った。

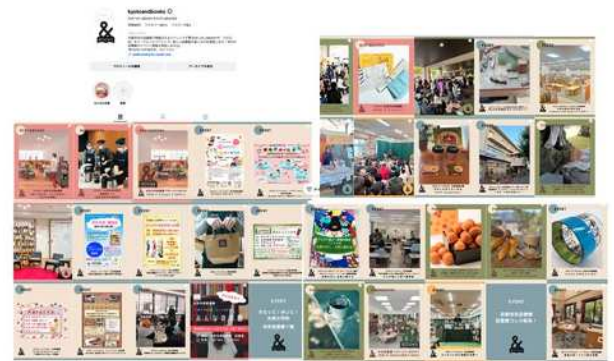
(4) Instagramのアカウントの立ち上げ・情報発信

・アカウント情報：@andbookskyoto
フォロワー数：246 (2026年3月18日時点)

・若年層や普段図書館を利用しない層をターゲットに、&BOOKSのイベントの他、市内の図書館イベントを、楽しさなどが伝わるビジュアルを重視した投稿を行った。



チラシ



Instagram

4. 空間創出効果の検証

(1) 利用者からの空間・滞在に関する評価

全ての図書館において「居心地が良かった」という回答が上位を占めている。POP-UP空間を体験したことで、本を借りるなど目的を持った利用から「滞在そのものを目的とする行動」への変容を促したと言える。

(2) 利用者からの具体的なニーズ

- ①自習室・Wi-Fi・電源の整備など、学習・作業に集中できる環境
- ②自宅のようにくつろげる家具や、軽食・コーヒーを楽しめる「カフェ機能」追加
- ③音を許容するゾーニングなど、子ども・子育て世代が気兼ねなく過ごせる空間・ルールづくり
- ④イベントの継続や感想の共有など、本を介した「交流・体験」とコミュニティ形成への期待
- ⑤誰もが安全に利用できるバリアフリー化や、夜間開館・駅返却などの利便性向上への改善要求
- ⑥ピロティ等の「屋外空間」の整備や、癒やしとプライバシーをもたらすグリーン（植物）活用

(3) 職員との振り返りによる利用者の声・運営・管理上の課題

- ①普段とは異なる利用者層（30～50代や若年層）の来館や滞在時間の延長など、空間創出がもたらしたポジティブな変化への実感
- ②家具の安全性への懸念や、音による利用者間の摩擦を防ぐための明確なゾーニングとルール設定の必要性
- ③見守りやイベント運営による業務負担の増加・人員不足を補うための、ノウハウ共有や外部連携ルールの必要性
- ④SNS運用におけるスキル・時間不足や炎上リスクの懸念を解消するための、本部一括運用体制の構築



5. 成果と課題の総括

(1) 成果

本事業により図書館が単なる「本を借りる場所」から、誰もが居心地が良いと感じる「サードプレイス」、市民の交流や自己表現の機会を創出する「フォースプレイス」、さらには地域と繋がる「まちの拠点」として機能する高いポテンシャルを持っていることが実証された。

①「サードプレイス化」に向けた多様なニーズに応える居心地の良い空間の創出：

デザイン性の高い家具や植物を配置することで、従来の図書館のイメージを覆す快適な滞在空間を生み出すことができた。

②「フォースプレイス化」に向けたソフト面の成果：本を介した交流・体験・自己表現の場の実現：

〇〇と本をテーマにイベントを開催することで、静かに本を読むだけでなく、企画を通じて人と人がゆるやかに関わり合う「フォースプレイス」としての機能が十分に発揮された。

③「まちの拠点」に向けた外部連携の成果：図書館を起点とした地域の繋がりに：

屋外でのキッチンカー出店や周辺MAP作成など、地域と連携し来場者をまちへ送り出す「まちに溶解する図書館」への第一歩を可視化することができた。

④新たな図書館像の共有と広報の成果：

実験を通じて課題と可能性を実感した現場職員のポジティブな意識変化がみられた。SNSやチラシを活用した新たな層へのリーチができた。

⑤市内80ヶ所の多様な図書館マップの作成による、京都の豊かな「本との接点」の可視化：

「まち全体を図書館とする」可能性を提示することができた。



(2) 課題

サードプレイス・フォースプレイス化に向けて、新しい機能を本格導入し、持続可能な運営へと移行するためには、現場の負担軽減と利用環境の整備という観点から、以下の課題を解決する必要がある。

①安全性と静と動のゾーニング：

全世代が安全に利用できる家具の選定や、音の許容度に応じた「静と動」の明確なゾーニング等の空間整備。

②外部連携と運営の仕組み化：

現場の負担を抑えて新たな取り組みを促進するための、イベント選定基準の策定や市民参加型コンテンツのシステム化。

③持続可能な運営と維持管理：

人員不足や見守り負担を軽減するための、メンテナンスが容易な家具・素材の選定と図書館スタッフに依存しない運営体制の構築。

④新たなターゲット層へのリーチ：

SNS運用におけるスキル不足や炎上リスクへの不安を解消するための、本部一括管理など組織的なサポート体制の構築。

6. まとめ

「本を借りる場所」から、「まちの居場所」へ。
「知の拠点」から「まちの拠点」へと進化する、京都市の図書館の未来。

今回の「POP-UP LIBRARY」は、単なる短期的なイベントではなく、京都市の図書館の未来像を市民とともに共有し、検討するための「社会実験」であった。市民は現在の図書館に対し、静かに本を読む機能だけでなく、集中できる学習環境やくつろげる居場所（サードプレイス）、そして本を介して人がつながる交流拠点（フォースプレイス）としての役割を求めている。

「目が悪くなり図書館から足が遠のいていたが、本を読まなくても自分の居場所があると感じて足を運びたくなる」ある利用者から寄せられたこの声が示すように、予約不要で天候に左右されず、誰でも無料でふらっと立ち寄れる快適な空間は、実は図書館において他にない。だからこそ、従来の機能を越えた多機能化が強く求められていることがわかった。

一方で、この新たな価値を定着させるためには、現場のリアルな課題を解決する必要がある。安全性や「静と動」の共存に配慮したハード面の整備と、現場の負担を軽減するソフト面の仕組み化。そして、単一の館で完結させるのではなく、複数館が特色を活かし連携・補完し合うネットワークの構築が重要である。

(1) ハード（空間・設備）への提言

多様な利用を受け止める居心地のいい空間づくり

①空間の工夫と多様性の創出：

多様な座席配置や植栽による視線のコントロールを用いた、幅広い層が居心地の良さを感じられる多様な空間（居場所）の創出。

②「読む・学ぶ」と「交流・くつろぎ」が共存するゾーニング：

音楽や会話が許容される「アクティブエリア」と、静寂を保つ「クワイエットエリア」両立させるための明確なゾーニングと、学習・作業スペース（自習室・Wi-Fi・電源）の拡充。

③誰もが安心して「長居」できる、ユニバーサルデザイン家具の選定：

全世代が安全かつ快適に長居できるよう、安定性や座り心地（背もたれ・肘掛け等）に配慮したユニバーサルデザイン家具のレイアウト変更に対応できる可動式家具の導入や、選定。



(2) ソフト（運営・サービス）への提言

まちの拠点となるための仕組み化と外部連携

①「禁止」から「共存」へ多様な過ごし方を許容する「新しい図書館のルール」づくり：

利用者間のトラブルを防ぎ、多様な過ごし方を許容するための、市民を巻き込んだ飲食や会話に関する新しい図書館ルールの明文化。

②図書館の魅力をお届ける本部一括運用による持続可能な情報発信：

SNS運用における現場の負担やリスクへの不安を解消するための、現場は情報提供に徹し本部が投稿を一括で行う持続可能な情報発信体制の構築。

③官民の垣根をこえた京都・図書館ネットワークの構築と「&BOOKS」モデルの展開：

官民連携によるイベント展開や「本と○○」のテーマ巡回を通じ、市内全域をひとつの大きな「まちの図書館」として機能させるネットワークの構築。